



## ず〜むあつぱ 「まちの風景」

東海村白方の NPO 法人「東海村菜の花エコプラン」(代表・藤井学昭さん)では8月22日、百塚保育所の5歳児 21 人を招き、白方コミュニティセンターと保育所で菜種の搾油・試食会を行いました。搾油したのは、法人自らが村内で無農薬・有機栽培した菜種。卓上の搾油機から搾り出される菜種油やマヨネーズ作りを見学・体験した児童は、菜種油を使い、からっときつね色に揚げられた野菜のてんぷら(かき揚げ)を給食で楽しみました。法人によれば、栽培した菜種は「キラリボシ」という品種で、昔ながらに圧力をかけるだけで搾るため、体にも良いとされるオレイン酸やビタミンE、カロチンを多く含むとか。近く年内には、県立水戸農業高等学校(食品化学科)の協力で瓶詰めされた菜種油を「東海村ナタネ・菜の花しぼり」という名称で販売することを目指しているそうで、法人設立の目的である、主に菜種油の学校給食等への提供などを通しての食の安全と“地産地消”の実現、環境に配慮する地域づくりも軌道に乗りつつある様子。法人で理事を務める岡崎英夫さんをはじめ、参加した法人会員 12 人も、この日の取り組みに手応えを感じていたのが、それぞれの表情も生き生きと輝いているように見えました。

### ●菜種を搾って、てんぷら試食。“菜の花エコプラン”活動



### ●三世代はつらつ! 内宿一区でラジオ体操

内宿一区自治会(自治会長・岡部正人さん、562戸)では、ラジオ体操を通して健康増進と交流づくりを図ろうと、小・中学校が夏休みとなる毎朝、地区内9か所で「三世代はつらつラジオ体操の会」を開催——8月30日の「光と風の広場」(役場庁舎・西側)における全地区集まっの締めくくり「全体会」には、300人を数える子どもたちや大人が続々と集まり、中には村上村長の姿も…。午前6時30分のラジオ放送を合図に一斉に体操が始められた会場では、参加者それぞれに“新しい一日の始まり”を実感したようで、最後にあいさつに立った村長も、「内宿一区のこの取り組みを村内に広げていければ…」と話し、その効果のほどに満足していました。

### ●体験しました! 不思議で楽しい科学の世界

8月20日、第7回「科学の祭典・東海村子ども科学広場〜おもしろ科学で遊ぼう〜」が中央公民館で開催され、小学生や父兄等約3,100人が詰め掛けました。これは実験や工作を通して子どもたちに科学を楽しんでもらおうというもの。バイオテクノロジーの世界で応用されている皮膜と同じ“人工イクラ”を作ったり、色とりどりのビーズを筒状のガラス板に入れて万華鏡を作ったりしました。鉄くぎにエナメル線を巻いて作った電信機に電気が流れると、取り付けたビール瓶の王冠が鉄くぎの頭に“ツートントン”。「モールス信号」の原理を目の当たりにすると興味深く何度もスイッチを押しているようでした。

